大きくなったら何になる？
「12歳の選択」迫るオランダ

大きくなったら何になる？　日本では「やりたいことが見つからない」と悩む若者も多いけれど、欧州では早くから将来の進路を真剣に考え、学校を選ばねばならない教育制度が定着している。オランダは小学校を卒業してすぐに大学進学か職業訓練かのコースを選ばなければならない。根っこにあるのは欧州に伝統的に息づく「階級社会」。これも徐々に変わりつつある。現代の子どもたちはどうやって自分の進路を見定めているのか。

（文と写真・河村克兵）

企業・学校のブースが並ぶ進路説明会。一番にぎわったのはDJのライブステージだった＝オランダ・アムステルダムの国際展示場で

小学校後、教育が3コース

DJがラップミュージックに乗せて語りかけた。「ちゃんといいのをチェックした？」

うなずく男子生徒もいれば、おしゃべりに夢中の女子生徒も。イベント名は「チェック・ユア・チョイス」（進路選択をチェックしよう）。今春、首都アムステルダムであった学校・企業説明会である。

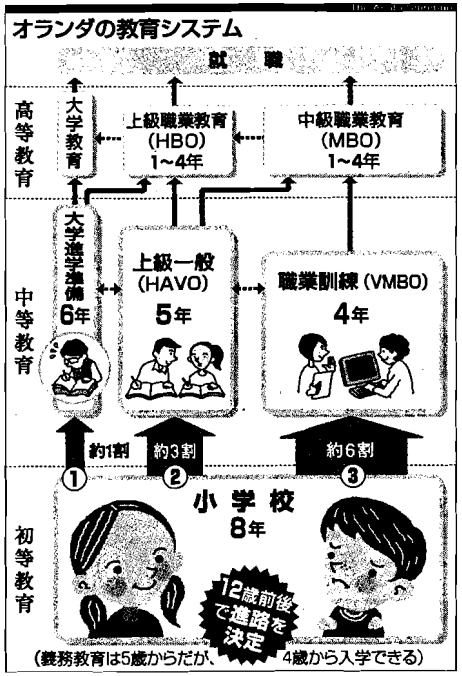
広い会場には様々な学校や企業のほか、陸海軍や警察もブースを出していた。集まったのは職業訓練教育を受けている14～20歳の若者たち。

集まった若者が職業訓練コースを選んだのは12歳前後と早い。人口約1600万のオランダの教育制度は日本とずいぶん違い、小学校の後の中等教育が、将来の進路に応じて3コースに分かれるためだ＝図。

①は大学進学コース。日本の大学進学率は4割台だが、オランダでは小学校を卒業した子どもの1割しか進まない。

②は高度な勉強を含む上級職業教育校（HBO）に進むためのコース（HAVO）で3割が進む。

③はさほど高度な理論教育がいらない中級職業教育校（MBO）に進む職業訓練（VMBO）コースで6割が進む。イベントに来た若者はこの進路の人たちだ。



途中で進路選び直す人も

ドイツ国境に近いナイメーヘン。シェフ・カンテルベルフさん(19)もこのコースに進んだ一人。11歳のときコンピューターに関心を持ち、VMBO、MBOに進んだ。

午前中は学校で勉強し、午後はマーケティングリサーチ会社で実習。月の報酬は1600ユーロ（約23万円）だ。この夏には、さらにレベルの高いHBOに進む。

彼のように選んだコースを終えた後、別コースに移ってのキャリアアップも可能だ。「僕の場合、子どものころのイメージ通りにうまくいっている。でも、若くして選択を迫られるために、後で行き詰まってしまう人は多いと思う」

友人のモモ・レナーツさん(19)は、まさにそのケースにあたる。

VMBOでの成績が良く、②コースのHAVOのクラスに移ったが、勉強が嫌になって挫折した。将来何をしたいのかも決まらなかった。「アートに演劇に自動車関係……たくさん木がありすぎて森が見えなかった」。選択肢が多すぎて迷ってしまった。

学校を出た後、派遣会社に紹介されたのは病院や刑務所の清掃など。今度はVMBOの卒業資格しかない自分には、選択肢が極めて少ない現実を知ることになる。最近やっと、ホテルやレストランなど飲食業界で働きたいという目標ができた。「今の制度だと精神的に不安定な年頃にあまりに大きな選択を迫られる。もっと柔軟で幅のある制度にしてほしい」

ただ、いったんコースから外れても、再挑戦し、ステップアップをめざす若者も多い。実際、モモさんも新たな目標を実現するため、HAVOに戻る準備を始めた。

南部のドルドレヒトに住むHBO学生のバウター・スプールさん(23)は自称・元不良。これまでの道のりはなかなか波瀾万丈だ。

16歳でVMBOを中退した後、すぐに短期の職業訓練教育を受け始めた。そのさなかに息子が生まれて一念発起。いったん電話会社で働いた後でMBOに進み、昨夏にHBOへ。離婚もした。今は勉強のかたわら、中国からいすなどを輸入・販売するビジネスを手がけている。

「僕はいろんな経験をして多くのことを学んだし、何をやりたいのかもわかった」。教育制度をはじめ、何度も再挑戦できる社会が変わらないでほしい、と願っている。

スポーツ選手・デザイナー・漫画家…
日本の12歳、まだ夢いっぱい

12歳前後の日本の子どもたちの「職業観」はどうだろう。お茶の水女子大の耳塚寛明教授（教育社会学）らの研究班は03年、首都圏のある市の小学6年生約1千人を対象に「どんな仕事がしたいか」を尋ねた。

男子は1位はプロスポーツ選手。2位がデザイナー、3位はサラリーマン、自然科学系の研究者、医師、小売店主と続く。女子は、保育士、美容師、看護師のベスト3に続いて、漫画家、デザイナー、小売店主。

研究班は「夢いっぱいに見える職業希望は今すぐ進路選択をする必要がないからだろう。日本の場合、希望が現実味を帯びるかどうかは家庭環境によるところが大きい」と分析する。